

言語文化学科

# ドイツ語圏言語文化コース



## ドイツ語圏 言語文化コースとは

ドイツ語とドイツ、オーストリア、スイスなどのドイツ語圏の国々の文学や文化に関心がある人たちのためのコースです。講義科目では語学、文学、文化の各分野を広く概観してこの専門領域に関する基礎的な知見を蓄え、演習科目では原書を読む力を、ドイツ語母語話者による授業では実践的な会話力を身につけます。比較的少人数のコースで教員との距離も近いのでから、落ち着いて自分のテーマに取り組みたい人には居心地の良いところではないでしょうか。外国語は習得するには骨が折れますが、こちらが望めば一生つきあえる友達にもなってくれます。知的好奇心が旺盛で、異質なものも新しいものに偏見を持たず、疑問に思ったことはとことん調べる、私たちのコースにはそんな人に来ていただきたいと思っています。



教授  
たかい きぬこ  
**高井 絹子** 先生

## 高井先生の研究

戦後のドイツ語圏文学が主な研究領域です。ハンス・ヴェルナー・リヒターが主催した文学集団四十七年グループは戦前戦中の主義主張もその後の戦争体験も異なる文学者の集まりです。社会的状況に鑑みて政治的議論に横滑りすることのないようリヒターが上手く場を取り仕切り、また放送局や出版社を参加させて文学とメディアの橋渡しをしました。彼らにはアドルノの「アウシュヴィッツ以後、詩を書くことは野蛮である」という文化批判や「文学産業」の言葉を次なる文学活動の肥やしにしてしまおうとくまじさがありました。五〇年代六〇年代を経て現代にいたる、どちらかといえば社会参加型文学の起点に位置するこの文学集団のあり方と個々の作家の作品が目下の関心事です。



3年生  
つねもり たくろう  
**常森 卓郎** さん

## ドイツ語圏言語文化 コースを選んだ理由

一回生の頃に受講したドイツ語応用の授業がきっかけでこのコースを選択しました。授業では文章を読む中でドイツ語圏の芸術作品に触れる機会があり、それを通じてドイツ語圏の文化に親しみを持ちました。

## ドイツ語圏言語文化 コースの魅力

言語、歴史、文化、芸術などの多様な面からドイツ語圏を捉えることができるところは大きな魅力だと感じています。私は将来的に卒論で文学分析をするつもりですが、文学へのアプローチの仕方が広がっていくのを感じます。

## 面白いと思った 専門科目

### 「科目名」ドイツ語圏文化論

北ドイツ周辺の人々がバルト海や北海を始めとした海とどのような関わりを持っていたのか、というのをテーマとして扱っていました。日本的な感覚と比べながら授業を受けていると色んな発見がありましたし、ウンディーネやローレライなどといった水の女の神秘性には、強く引き込まれました。

## 卒論テーマ例

- ・心態詞 ja と doch の考察—ドイツ語学習に向けて—
- ・ワーグナーの救済観の変化とキリスト教批判—『さまよえるオランダ人』『タンホイザー』『パルジファル』を手掛かりに—
- ・ケストナーと子どもの本—『エーミールと探偵たち』『点子ちゃんとアントン』、『飛ぶ教室』、『ふたりのロッテ』を手掛かりに—

## ドイツ語圏言語文化コース にとっての 『とびつ』と『とびつ』

初めてドイツに行ったらと扉に翻弄されました。石造りの広大な建物の、押ししても引いても重すぎて開かない厚い木の扉。ホームステイ先では、浴室の鍵穴に差し込まれた鍵の扱いを間違え、扉が開くまで冷や汗ものでしばらく孤軍奮闘。路面電車や地下鉄の乗降口の自動レバーも、最初のうちはどうやって開けるのか他の人のしぐさをこっそり観察していました。すっかり用心深くなって、大学図書館のロッカーでは荷物を入れる前に近くにいたドイツ人学生に声をかけて鍵の開閉の仕方を確認しましたっけ。あちらでは次に来る人のために扉を支えておくと、次の人が会釈してこれを順に引き継ぐのですが、そういう習慣のない日本で同じことをすると、時に会釈もなければ引き継いでもくれない数人分、扉を支え続けることになる……。

当コースの共同研究室の扉には「Willkommen」のプレートがかかっています。一度ノックしてください。異文化への扉も一緒に開かれることでしょうか。（文・高井先生）